

交響曲 第4番 Op. 98

J. ブラームス作曲

ヨハネス・ブラームスが1884年から1885年にかけて作曲した『交響曲第4番 ホ短調 作品98』は、彼の交響曲創作の頂点であり、ロマン派音楽の最高傑作の一つに数えられる monumental な作品です。伝統的な形式美を極限まで突き詰めながらも、全編にわたって深く深い哀愁と情熱が漂う、ブラームスの人生の秋を思わせる名作です。

第1楽章は、切なさを帯びた有名な2度の下降音程の主題で静かに始まり、秋風のような寂寥感と劇的なエネルギーが交錯します。第2楽章は古風な教会旋法を思わせる神秘的で温かみのある美しさを湛え、第3楽章では一転して躍動感あふれる力強いリズムが快活に響き渡ります。

圧巻は終楽章（第4楽章）で、バロック時代の変奏曲形式である「シャコンヌ」を採用しています。地歩を固めるような8小節のバス主題が執拗に繰り返されるなか、オーケストラの全力を傾けた壮麗で劇的な変奏が展開され、最後は悲劇的な緊張感のなかで凄まじい熱量を放って全曲を閉じます。過去の様式への深い敬意と独自のロマン主義的魂が見事に融合した、聴き手の心に深く刻まれる交響曲です。